

平成30年度 業務棚卸評価シート

No.	29	担当部課名称	こども育成部保育課
事務事業名	保育に関する管理事業		
見直しのタイトル	保育に関する管理事業		
添付資料 有無	無		

1 現状における課題

- ・保育ニーズの増大に対応し受け入れ枠を拡大、認可保育所等への入園児童数は年々増加している。
(入園児童数4月時点) H21：約2,000人 H27：約3,000人 H30：約4,000人
- ・翌年4月の入園申込み者も年々増加しており、H30.4の申込者は約1,200人となっている。
- ・このような状況の中、入園選考にかかる人員及び時間は年々増加しているとともに、入園児童及び保護者の管理や給付等の処理についても事務量が急激に増加している。
- ・また、事務処理上のミスを起こさないための確認作業も増加している。
- ・今後も、保育ニーズは伸びる見込みとなっており、認可保育所等にかかる事務の効率化及び正確性の向上が課題となる。

2 業務改善の趣旨及び具体的内容

【趣旨】

他市で試行的に導入されているICT化の状況について情報収集するとともに、本市における導入の可能性を検討する。

【具体的内容】

次の工程を踏まえた後、H32年度からの導入の可能性を判断する。

- ・保育所入所選考の自動化（AI技術の活用）について事業者から情報収集
- ・申請書入力や給付費支払事務の支援などへのRPA導入について事業者から情報収集
- ・先進自治体の視察（さいたま市など）
- ・事業者、情報推進課と連携し、実証実験
- ・費用対効果を含めた本市での実現可能性の検討

3 改善により期待できる効果

- ・毎月の給付費支払い業務にかかる事務量を軽減
- ・毎月及び翌年4月に向けた支給認定及び入園申込内容の入力にかかる事務量を軽減
- ・毎月及び翌年4月に向けた認可保育所等への入園調整にかかる事務量を軽減

※2の作業によりどれだけの効果があるのかを見極める

4 実施スケジュール（概要）

6～7月	事業者からの情報収集
8～10月	先進自治体の視察
11～2月	実証実験
3月	効果及び導入可能性の検証

5 実施結果の振り返り

6～7月にかけて、RPAを活用した事務処理の軽減やAIを活用した入所選考の可能性について、情報推進課と連携しながら複数の事業者から情報収集を行うとともに、本市で導入した場合の課題等の検討を行った。

RPAの導入に際しては、LGWAN環境との連携などに課題があることが見えてきており、その課題を解決する方法があるのか、または限られた環境内で効果を上げられる可能性があるのかという視点で継続して検討している。

また、AIを活用した入所選考については、実証実験に向け、9月頃からその内容の打合せを重ねるとともに、実証実験を行うための協定書の準備を行ってきたが、本市の体制の変更や実施事業者の都合等により、年度内に実施には至らなかった。

今年度の取組みの中では、当課の業務においては、AI導入に比べ、RPA導入のほうが高い効果が期待できると考えている。